

シテ彼ニハ其學校ノ何タルヲ問ハス此ニハ特ニ小學校ト限定ス豈

前後其主義ヲ二三ニスルニ非スヤ

○外一番三島田三 廿二番ハ第四十八條ヲ引證シテ反駁スレトモ彼ハ職

制ニ止マリ此ハ人民ノ膏血ニ係ル豈之ヲ同視スルノ理アラシヤ

○十八番山口 修正説ハ不可ナリ第四十八條ハ以テ教員監督ノ權ヲ

政府ノ手ニ掌握スルニ在リテ海外各國皆然ラサルハナシ夫ノ可エ

ズストル氏ハ米國マサチユセツト府ニ於テ小學教育ノ必須ヨリ人

民納稅ノ義ヲ説キ以テ大名ヲ後世ニ博シタリ蓋シ其説適切ナレハ

ナリ此第四十九條ノ如キハ專ラ給料ノコニ止マレハ彼論旨ニ依リ

他ノ任免等ト同一視スヘカラサルナリ然レトモ本案猶未タ不備ナ

キニ非ス依テ時ヲ得テ其修正説ヲ提出スヘシ

○廿三番渡邊 本官亦一修正説アリ時ヲ得テ之ヲ提出セシ

○議長 廿二番ノ修正説ニ同意者ハ起立スヘシニ

起立者二人

○議長 少數ナルヲ以テ廿二番ノ修正説ハ消滅ス

○廿三番渡邊 本官ノ説ハ十一番ト大同小異ナリ即チ本案ノ文部卿

ニ開中スヘシヲ改メ文部卿ノ認可ヲ經ヘシト爲サントス既ニ本案

ノ精神ハ十六週日間就學セサル者ハ罰スルモ猶可ナル如キ者ナル

ヲ以テ原案ニ一層鄭重ヲ加ヘテ此ノ如ク改作セント欲スルナリ

○議長 廿三番ノ修正説ハ賛成者ナキヲ以テ消滅ス

○十八番山口 本案ハ法文ノ体ヲ失スルヲ以テ之ヲ改作セサルヘカ

ラス即チ第廿四條ニハ公立學校ノ費用府縣會ノ議定ニ係レルモノ

六十一

ハ云々町村人民ノ協議ニ係レルモノハ云々下アリテ各其支辨者ノ
 會議ヲ經サルヘカラス之ヲ本按法律ノ精神ト爲ス然ルニ本條ニハ
 府知事縣令之ヲ規定シテ云々下アリテ地方官ノ獨裁ニ任スル者ト
 ス豈前後背馳スルニ非スヤ故ニ本官ハ本案俸額ハノ下町。村。人。民。ノ
 協。議。ヲ。經。ノ。九。字。ヲ。加。ヘ。且。規。定。ノ。文。字。ヲ。認。可。ト。改。作。ス。ル。ヲ。可。ト。ス。
 ○十一番 神田 孝平 賛成
 ○議長 十八番ノ修正説ハ賛成者アルヲ以テ問題ト爲ス
 ○外二番 久保田 讓 各町村ノ撰定ニ由テ教員ノ俸給ヲ定ムルハ既ニ現
 行規則ニ於テ之ヲ爲スト雖モ其實際ヲ顧ミルニ各町村ハ徒ニ費用
 ノ節減ヲ主トシ漫ニ薄給ナル教員ヲ舉ケテ之ニ緊要ナル教育ヲ委
 スルニ依リ俸給ハ愈其額ヲ少クシ教員ハ愈不良ナル者多キヲ加ヘ

今ヤ小學教員ノ名聲ハ概シテ地ニ墮テ學事衰頽ノ一大原因トナレ
 リ是レ人民ニ任放スルノ弊ナレハ以テ鑑ニスンハアルヘカラサル
 ○ナリ某議官ハ本條ハ他條ノ精神ニ背馳スト云フト雖モ起草ノ主旨
 ハ教員其人ニ由テ俸給ヲ定メントスルニ非ス何等訓導ハ何圓ト其
 職ニ由テ其月俸ヲ定ムルニ在リテ夫ノ郡區長ノ給料ヲ何圓ヨリ何
 圓迄ト指定スルト一般決シテ法律ニ支吾ナキヲ信スルナリ
 ○十六番 玉乃 世履 目下番外二番ノ辨明ヲ聽テ疑惑ヲ生セリ町村會ニテ
 費用ヲ支辨スト云ヒ又府知事縣令ニテ俸給ヲ規定スト云ハ孰ヲ
 前トシ孰ヲ後トスルカ
 ○外二番 久保田 讓 例ヘハ地方官ハ訓導ヲ十等ニ分ツト假定センニ一
 等ヲ廿五圓十等ヲ十圓トシ每等ニ其差ヲ設ケ而シテ町村ハ之ヲ採

用スルニ方リ其費額ノ過不足ヲ料リ之ヲ舉クルニ在ルナリ

○十八番山口番外二番ノ説一理アリト雖モ土地ト時勢トニ依テ之

ヲ分別セサルヘカヲス例ヘハ甲村ニ於テハ學者多クシテ其俸給少

キモ猶教員タルヲ望ム者アリ乙村ニテハ俸給多キモ猶之ヲ欲セサ

ル者アリ然ルニ既ニ俸給ニ定限アレハ之ヨリ上下スル能ハサル等

ノ弊アリ仍テ先ツ町村ノ協議ニ由テ之ヲ定メ而シテ後府知事縣令

ハ其當否ヲ考定シ之ヲ左右スルヲ以テ始メテ本案ノ精神ヲ全カラ

シムヘキナリ故ニ本案ハ修正セサルヘカヲス

○十一番神田 飯ヒ本案ノ精神ハ番外二番ノ説ク如クナルモ單ニ本

案ヲ讀下セハ地方官ハ或ハ各教員ノ俸給ヲ定ムルカ如キ嫌ヒアリ

看ルヘシ第卅八條ニハ府知事縣令ハ教員ニ卒業證書ヲ與フルノ項

アリ此事ニシテ猶且之ヲ爲スヲ得ハ其俸給ト雖モ亦地方官ハ各自

ニ之ヲ定ムルヲ得ル者ト誤認スルノ嫌アリ而シテ町村ノ協議然經

○ト爲スモ政テ法律ノ精神ニ戻ルニ非ラサルヲ辨シニ蓋キヤリイ

○廿三番渡邊 修正説ハ不可ナリ是レ官民ノ益ヲ欲シテ反テ之カ圭

角ヲ生スルノ緣由タリ蓋シ地方官タルモノ一旦町村ノ協議ヲ以テ

○定メタル者ヲ認可セサル如キノアラハ遂ニハ官民支離ノ基トナル

ヲ免レサレハ原案ノ儘レルニ如カス

○議長 十八番ノ修正説ニ同意者ハ起立スヘシ

起立者四人

○議長 少數ナルヲ以テ十八番ノ修正説ハ消滅ス且第五十條ノ全文

ハ既ニ第卅七條ノ但書ト爲スニ決シタレハ直ニ第五十一條ニ移ル

へ但同條中職工學校ノ字面アリ是レ既ニ第三讀會ヲ俟テ修正ス

○八キニ決シタル者ナレハ併セテ之ヲ陳フ

書記官 左ノ案ヲ朗讀ス

○第五十條 各府縣ニ土地ノ情況ニ隨ヒ中學校ヲ設置シ又專門學

校職工學校等ヲ設置スヘシ

○議長 本案ニ同意者ハ起立スヘシ

全員悉起立シ

○議長 全會一致ナルヲ以テ本案ニ決ス

○十八番 山口 建議ヲ爲ス本案ハ全体ニ係リ異議已ニ盡キタリト認

ム因テ便宜法ヲ用ヒ朗讀ヲ用ヒス直ニ第三讀會ヲ開キ修正ヲ欲ス

ル者ハ條ノ前後ヲ問ハス之ヲ提出セハ乃チ議決ニ妨ガカラシ是レ

本案急施ヲ要スルノ主旨ニ基ク者ナレ故幸而此議ノ行ハレシヲ

希望ス

○八番 九鬼 贊成ニ賛成ス

○議長 十八番ノ建議ニ同意者ハ起立スヘシ

○十八起立者十八人

○議長 多數ナルヲ以テ十八番ノ建議ニ決シ暫時休憩ノ後再ヒ開會

スヘシ散會セヨ

○午後第五時閉場

午後第五時五分閉場

午後第五時五分閉場

退席 楠本 正隆

河津 十九番 福岡 孝弟

同 廿四番 安場 保和

同 廿九番 福羽 美靜

○議長 自今第三讀會ヲ開クヘシ然ルニ本按ハ第二讀會ニ至ルマテ修正モ多カラサレハ更ニ便宜法ヲ用ヒ朗讀ハ省クヘシ各位之ヲ領

○シテ發議セヨ 廿八番 農學ニ先ニ讀ムルハ宜シク再ヨ開會

○十八番 山口 第二讀會ニ豫陳セシ如ク第二條ニ修正ヲ加ヘ專門學

校ト職工學校トノ間ニ農學校商業學校ヲ七字ヲ插入セントス否ラ

○スニハ或ハ工業ニ偏頗ナルノ誹アルヲ免カレス論者或ハ云ハン農

商ノ學ハ專門ナリ故ニ其科ハ專門學校ノ内ニアリト然レモ是眞ニ

斷定スル所ナクシハ或ハ疑アラントヲ恐ル仍テ別ニ之ヲ明示スル

○ヲ可トス

○八番 九鬼 贊成

○十二番 伊集院 贊成

○九番 林友 贊成

○十番 中村 贊成

○廿一番 本田 贊成

○議長 十八番ノ修正ハ五名ノ贊成者アルヲ以テ問題ト爲ス

○二十三番 渡邊 本官モ第二讀會ニ方リ單ニ職工學校ノミヲ加フル

○ハ不當ナル旨ヲ述ヘ本邦ノ農事ニ於ル最重最大ノ業ナレハ之ヲ加

フルノ修正ヲ爲ントシ爲メニ委員ニ附托セントノ建議ヲ提出セリ

○今十八番ノ說ハ先ツ吾心ヲ得タルモノナレハ之ヲ贊成ス

○議長 十八番ノ修正ニ同意者ハ起立スヘシ

起立者十二人

○議長 多數ナルヲ以テ十八番ノ修正ニ決ス

○十八番 尚芳 既ニ第二條修正ニ決セシ上ハ第八條モ亦修正セサル

ヘカラス則チ同條ハ農學校ハ農耕ノ學業ヲ授クル所ト区商業學校

ハ商賣ノ學業ヲ授クル所ト区職工學校ハ百工ノ職藝ヲ授クル所ト

スト三箇駢立セシメントス其理由ハ陳述セスシテ各位ハ領知セラ

ル、ナラン

○八番 九鬼 贊成

○廿三番 渡邊 贊成

○卅五番 野村 贊成

○十番 中村 贊成

○廿七番 佐々木 贊成

○議長 十八番ノ修正ハ五名ノ贊成者アルヲ以テ問題トシ直ニ決

取ラン十八番ニ同意者ハ起立スヘシ

起立者十三人

○議長 多數ナルヲ以テ十八番ノ修正ニ決ス

○十番 中村 第十七條但書ニ聊文字ノ修正ヲ爲ントス但郡區長ハ兒

童ノ學業ヲ其町村ノ小學校ニ於テ試験セシムヘシトアリ蓋シ此兒

童トハ本文小學校ニ入ラサルノ兒童ナルヲ疑ナシト雖凡單ニ兒童

ト云フハハ稍茫漠タルヲ以テ其兒童云ヤト其ノ字ヲ加ヘントス

○十八番 山口 贊成

○廿三番 渡邊 本官モ常ニ其ノ字ノ位置ヲ正サントセシモ些々タル

文字ナレハ之ヲ不問ニ措ケリ然レモ已ニ動議アル上ハ寧ロ其兒童

ヲ町村ノ小學校ニ於テ云々ト改ムルヲ可トス因テ賛成ス

○九番 幸林友 賛成

○廿七番 佐々木 高行 賛成

○七番 岩下 方平 賛成

○議長 十番ノ修正ハ五名ノ賛成者アルヲ以テ問題ト爲ス

○十一番 神田 孝平 動議者ノ説ハ其兒童ヲ其町村云々ニ作ラントシ其ノ

字ニ箇アルカ如シ然ルニ賛成者中ニハ兒童ノ上ニ其ノ字ヲ加ハ原

按町村ノ上ナル其ノ字ヲ刪ルカ如キ説アリ果シテ何レヲ取ルヘキ

ヤ

○十番 中村 弘毅 兩ナカラ其ノ字ヲ存スルノ意ナリ

○廿三番 渡邊 昇 本官ハ其ノ字ヲ轉置スルモノト思ヒ之ヲ賛成セシニ

其ノ字重複スルハ太タ取ラサル所ナレハ止ムヲ得ス賛成ヲ退ク

○廿二番 箕作 麟祥 本官ハ原按ヲ可トス修正ノ如キハ其ノ字多キニ過キ

句調語勢モ穩安ナラス且此冠詞ナキモ意味ニ於テ茫漠タラサルヲ

以テスレハナリ

○廿一番 本田 親雄 廿二番ト同意ナリ

○十六番 玉乃 世履 本官モ廿二番ト同ク原按ヲ可トス

○議長 廿三番ハ賛成ヲ退クト雖モ十番ノ説ハ問題タルニ妨ケナシ

仍テ決ヲ取ラン十番ニ同意者ハ起立スヘシ

起立者五人

○議長 少數ナルヲ以テ十番ノ修正説ハ消滅ス

○廿三番 渡邊昇 第四十九條ハ第二讀會ニ於テモ頗ル議論アリシ本官

モ原按ハ實行上ノ障礙アリトシ當時修正説ヲ呈シテ行ハレスト雖

モ今又別ニ一説ヲ呈セントス本條ノ文末ニ府知事縣令之ヲ規定シ

テ文部卿ニ開申スヘシトアリ此ノ如クンハ文部卿ハ只校閱者ニ止

リ學校教員ノ俸額ハ地方長官ノ隨意ニ定ムル所トナリ遂ニ甲縣乙

府ハ互ニ其額ヲ異ニシ全國ニ於テ大ナル不平均ヲ生シ之ヲ聞知ス

ルノ人民ハ互ニ感觸ヲ發シ疑惑ヲ生スル少ナカラサルニ至ラン故

ニ其全權ハ文部卿ニ委任シ卿能ク甲乙ノ規定ヲ參照シテ多寡不平

均ヲ生スルノ弊害ナキヲ注意スルヲ可トス仍テ文末「文部卿ニ開申

スヘシトアルヲ文部卿ノ認可ヲ經ヘシト修正セントス此ノ如クセ

ハ管ニ權衡ヲ規スノミナラス他ノ諸條ト文章ノ整齊ヲ得ヘキナリ

○文部卿 河野敏鎌 廿三番ノ説出シニヨリ茲ニ一言セン抑本按起草ノ時

ニ方リ既ニ斯ル議論ナキニアラスト雖モ當時各地方官ノ上京ニ際

シ其情況ヲ諮詢セシニ或ハ情狀ヲ實地ニ酌量セシ場合アレハ萬一

不都合アル時ハ爰ニ變則ヲ用フルモ不可ナシトセシモ再思スルニ

是甚々然ラス苟モ規定俸額ノ少キ時ハ姑ク置キ其多キニ過ルニ至

テハ決シテ黙止スヘカラスシテ亦其場合ナキヲ期セス故ニ本文ハ

廿三番ノ説ノ如ク認可ヲ經ヘシトシ一般ノ權衡ヲ取ルヲ以テ必用

トスルナリ各位此意ニ同セラレコトヲ望ム

○八番 九鬼隆一 賛成

○十六番 玉乃世履 賛成

○廿三番 箕作麟祥 賛成

○九番 林友幸 賛成

○十番 中村弘毅 賛成

○議長 廿三番ノ説ハ五名ノ賛成者アルヲ以テ問題ト爲ス

○十八番 山口尚芳 廿三番ノ修正説ハ太タ非ナリ蓋シ教員ノ俸額ヲ地方

官ノ規定シテ文部卿ニ許可ヲ受ルカ如キハ西洋各國決無ノコタリ

其故ハ例ヘハ本邦ニ三府三十六縣アリ各其宜ヲ異ニスルヲ以テ各

地ノ學校盡ク同一ナルヲ得ルコハ實ニ爲シ得ヘカラサレハナリ是

ヲ以テ西洋諸國ニハ教育執政ハ大學專門學又ハ大都府ノ中學師範

學ノ諸校ノ外ニ干涉スルコナシ自餘ハ往々府縣議會ニ全權ヲ委任

シ夫ノ佛國ノ如キ二十四州ノ小學校ハ皆博士學士等其人ヲ擇テ之

ニ委任シ制度大ニ改進セリ我國未タ此ノ如キコナシ故ニ文部卿之
ヲ爲ストセンカ卿ハ開申ヲ受ケテ監督シテ可ナリ何ソ干涉ヲ要セ
ンヤ蓋シ知事令ハ教育事務ニ於テハ文部卿ノ配下ナリ然レハ則チ
委託金額幾許ハ教員給與ニ支辨セシト上申シテ足レリ若シ不都合
ノコアラハ其時ニ方リ令ヲ下シテ改正セシムルモ亦不可ナシトス
故ニ本官ハ之ヲ町村會議ニ委セサルハ遺憾ナリト雖レ廿三番ノ説
ニ比スレハ寧ロ原按ヲ可トスルナリ

○廿三番 渡邊昇 十八番ハ西洋博士ノ例ヲ引キ文部卿干涉ノ非ヲ云フ
ト雖レ其西洋ノ例ハ今日未タ遽カニ行フヘカラス故ニ其全權ヲ擧
テ文部卿ニ任スルハ之ヲ地方長官ニ委スルヨリハ勝レルコト遠シト
ス蓋シ地方官ニ委スルヤ其費途區々ニシテ全國均一ヲ得サルノ憂

アルハ已ニ述ルカ如ク且之ヲ府縣長官ノ自由ニ放任スルモハ文部
 卿ハ學務統轄ノ名アリテ其實ヲ失ヒ只其願使ニ任スルモノ、如シ
 十八番ノ説ハ云テ行ハレヌ又行ワテ害アリトス、其全額ヲ
 ○十六番玉乃 世履 廿三番ノ説アルヤ本官ハ姑ク其利害ヲ考察シ終ニ利
 アルヲ覺ルヲ以テ之ニ賛成セリ十八番ノ駁議ハ却テ問題ノ利ヲ示
 スモノ、如シ例ヘハ訓導教授ハ買賣物ニシテ之ヲ買フモノハ町村
 人民ナリ而シテ知事令ハ其買物ノ評價人ナリ然レハ眞ノ買人ニシ
 テ之カ價ヲ定ムル能ハサル上ハ單ニ評價人ニ放任スルヨリハ其評
 價人ヲ命スル所ノ文部卿ノ承諾ヲ受クルハ事鄭重ニシテ實施ニ差
 支少ナカラシ十八番ハ買人ニシテ之カ價ヲ決スルノ權ナクシハ寧
 ロ一箇中立ノ評價人ニ放任シ本主ニモ示サストスルハ亦利害ヲ顧

○ミサルモノニアラスヤ

○十一番神田 孝平 本官ハ第二讀會ニ於テ本條刪除ノ説ヲ述ヘテ行ハレ

ス已ムヲ得スシテ十八番ヲ賛成シ亦不幸ニシテ消滅セリ此二説ヲ

除クノ外ハ二十三番ノ如キ原按ト大同小異ナル説ニ同意スル能ハ

サルナリ之ヲ要スルニ本條ノ如キ干涉ノ法ハ些少ノ修正ヲ加フル

トモ行政地方官ノ專斷ハ制スルコト能ハス爲メニ却テ教育事務ヲ妨

障スルニ至ルモ亦期スヘカラサルナリ抑道路河港費ノ如キ警察衛

生費ノ如キ皆民會ノ議決ニ係ルモノハ其切要ナルカ爲メニアラス

ヤ然ルニ獨リ切要ナル教育費額ニ關スルモノニシテ人民ニ相談ナ

ク官吏ノ擅斷ニ歸スルハ何ノ理由アルヤ不公平モ亦甚シト云フヘ

シ既ニ條旨ニ不同意ナレハ廿三番ノ説モ亦賛成スル能ハサルナリ

○議長 廿三番ノ修正ニ同意者ハ起立スヘシ

起立者七人

○議長 多數ナルヲ以テ廿三番ノ修正ニ決ス

○十八番山口 尚芳 第五十一條即チ修正第五十條ノ專門學校ノ下ヲ農學校商業學校職工學校云々ト修正セントス是レ第二條第八條ノ修正

可決セシ上ハ然ラサルヲ得サレハナリ

○八番九鬼 隆一 賛成

○十二番伊集院 兼寛 賛成

○三十五番野村 素介 賛成

○廿二番箕作 麟祥 賛成

○廿三番渡邊 昇 賛成

○九番林友 幸 賛成

○議長 十八番ノ修正ハ五名以上ノ賛成者アルヲ以テ問題トシ直ニ決ヲ取シ十八番ニ同意者ハ起立スヘシ

起立者十二人

○議長 多數ナルヲ以テ十八番ノ修正ニ決ス猶本按ニ異議ナキモノハ起立スヘシ

全員悉起立

○議長 全會一致ナルヲ以テ本按ニ決シ第三讀會ハ茲ニ畢ル更ニ本會ヲ以テ確定決議會トスルヲ可トスル者ハ起立スヘシ

全員悉起立

○議長 全會一致ナルヲ以テ本會ヲ確定決議會トシ修正ノ理由ヲ具

○シ例ニ遵ヒ上奏セシ散會セヨ旨ヲ諭旨ニ奉ル旨ニ對シテ對五ノ理由ニ具
午後第六時十五分開場

○會見以テ諭旨ニ奉ル旨ニ對シテ對五ノ理由ニ具

○議決ニ對シテ對五ノ理由ニ具

○議決ニ對シテ對五ノ理由ニ具

○議決ニ對シテ對五ノ理由ニ具

○議決ニ對シテ對五ノ理由ニ具

○議決ニ對シテ對五ノ理由ニ具

○議決ニ對シテ對五ノ理由ニ具

○議決ニ對シテ對五ノ理由ニ具

○議決ニ對シテ對五ノ理由ニ具

元老院會議筆記明治十三年十二月二十五日

○第二百十八號議按明治十四年郵便檢視會規則及罰則布告

議長大木喬任

出席議員廿三番

廿番楠本正隆

三番渡邊清驥

三番鶴田皓

四番岩村通俊

五番大給世恒

七番岩下方平

九番林友幸

十番 中村 弘毅

十一番 神田 孝平

十三番 東久世通禧

十六番 玉乃 世履

十七番 津田 出

十九番 福岡 孝弟

廿一番 本田 親雄

廿二番 箕作 麟祥

廿三番 渡邊 昇

廿四番 安場 保和

廿五番 津田 眞道

○議二百十八號議按檢視會ヲ開ク然ルニ本按ハ節目頗ル浩漭ナルヲ以テ慣例ニ從ヒ布告文ノ外ハ朗讀ヲ省ク各位之ヲ領

廿六番 大久保一翁

廿八番 伊丹 重賢

三十番 細川潤次郎

三十二番 河田 景興

三十三番 水本 成美

三十四番 楠田 英世

○議廿九號議按檢視會ヲ開ク然ルニ本按ハ節目頗ル浩漭ナルヲ以テ慣例ニ從ヒ布告文ノ外ハ朗讀ヲ省ク各位之ヲ領

○議廿九號議按檢視會ヲ開ク然ルニ本按ハ節目頗ル浩漭ナルヲ以テ慣例ニ從ヒ布告文ノ外ハ朗讀ヲ省ク各位之ヲ領

○議長 本日ハ第二十八號議按檢視會ヲ開ク然ルニ本按ハ節目頗ル浩漭ナルヲ以テ慣例ニ從ヒ布告文ノ外ハ朗讀ヲ省ク各位之ヲ領

シテ發議セヨ

書記官 森山茂 左ノ按ヲ朗讀ス

明治十四年郵便規則及罰則別冊ノ通ニ候條此旨布告候事

○議長 發議ナシ本按不備不明若クハ舊法ニ抵觸ノ廉ナシト思考ス

ルモノハ起立セヨ

全員悉起立

○議長・全會一致異議ナク檢視ヲ經過セシ旨ヲ吐奏ス

午前第十時二十七分閉場

右訖ツテ議長ハ本年ハ餘日也此勘キニ依テ本會ヲ以テ終會ト

シ閉院スヘキ旨ヲ宣告ス

三十四番	楠田	英世
三十三番	水本	如美
三十二番	三十二番	
三十一番	三十一番	
三十番	三十番	
廿九番	廿九番	
廿八番	廿八番	
廿七番	廿七番	
廿六番	廿六番	

元老院會議筆記明治十三年十一月二十七日 禁傍

○號外第二十八號意見書 願望書取扱規則ヲ發セス別ニ國事第一

第二及第三讀會

議長 東久世通禧 代理

出席議員

一番	楠本	正隆
三番	鶴田	皓
四番	岩村	通俊
七番	岩下	方平
九番	林	友幸
十番	中村	弘毅

十一番 神田 孝平

十四番 黒田 清綱

十六番 玉乃 世履

廿二番 箕作 麟祥

廿四番 安場 保和

廿六番 大久保 一翁

廿八番 伊丹 重賢

廿九番 福羽 美靜

三十番 細川 潤次郎

三十一番 柴原 和

三十二番 河田 景與

三十四番 楠田 英世

午前第十時十分開場

○議長 正副議長欠席ニヨリ本官代理ヲナシ號外第二十八號意見書

第一讀會ヲ開ク例ニ從ヒ發言スヘシ

書記官 森山 茂 左ノ案ヲ朗讀ス

願望書取扱規則ヲ發セス別ニ國事上言ノ取扱方ヲ布告スヘキ
意見書

謹テ案スルニ願望書取扱規則已ニ本院ノ議定ヲ經タリ然レモ熟々
該按ヲ考フルニ未タ完全ナラサル所口多シ行政裁判ノ事ノ如キハ
宜ク更ニ之ヲ詳カニスヘシ而シテ第六條及第十二條ノ如キハ之ヲ
今日ノ人情ニ參スルニ未タ妥ナラサルニ似タリ之ヲ外國ニ考フル

ニ亦未タ多ク其例ヲ見ス縦ヒ修正ヲ加フルモ大意ハ則全原按ニ同
シ本官ノ見ル所ニ據レハ目今未タ必スシモ此按ヲ設ケサルナリ但
世ニ諸種ノ名目ニ托シテ建白ヲ指令ヲ乞フ者アリ此則舊法ニ害ア
リ防カサルヘカラサルナリ左按僅々タル數字庶幾クハ此弊ヲ防ク
ニ足ラン謹テ進止ヲ取ル

明治十三年十一月十九日

細川潤次郎

山口 尙芳

布告案

國事ニ付上書スル者ハ種々ノ名目ヲ以テスルニ拘ハラヌ建白書ト

看做シ元老院ニ於テ取扱候條渾テ管轄廳ヘ差出該廳ヨリ轉送可致
此旨布告候事

記者曰左ノ布告文ハ議場ニ於テ朗讀ナカリシ者ト雖モ參照ノ
爲メ意見書ニ添ヘテ提供ナリタル者ナレハ此ニ登録シテ閱覽
ノ便ニ供ス

參照

第七拾八號

諸建白書元老院ヘ可差出旨本年四月第六十八號ヲ以布告候
處自今立法ニ關スルモノハ元老院ヘ其他ハ主任ノ廳ヘ可
差出尤訴訟ニ涉ル事件ニ於テハ成規ノ手續ヲ示シ本人ヘ
可下戻候條此旨布告候事

但東京ノ外各地方ノ人民ハ管轄廳へ差出該廳ヨリ本文
同様主任ノ廳へ轉送可致候事

明治八年十一月廿五日 太政大臣三條實美

○三十番 細川潤
次郎

本案起草ノ理由ハ粗緒言ニ盡スト雖モ更ニ一步ヲ
進メテ之ヲ論セントス本院向ニ議決上奏セシ所ノ願望書取扱規則
中私益ニ關スル請願ノ行政裁判ニ係ル者ノ如キハ太々難事ナラス
ヤ元來此事タル英佛獨等ノ諸國ハ共ニ其法則アリテ大旨ハ皆同軌
ナルモ其方法ニ至テハ各殊別アリ蓋シ該下付原案ニハ單ニ自己ノ
私益ニ關スル者ヲ請願ト云フトノミニシテ寧ロ大簡ニ失スルヲ以
テ稍修正ヲ加ヘテ明備ニ至リシカ如キモ尙其私益請願中何物カ行
政裁判ニ屬スルヤニ至テハ或議官ノ論セシ如ク冤枉ナキヲ保チ難

シトス故ニ此請願ノ起ルハ行政官吏其權限ニ戻リ法律ヲ濫用或ハ
誤用セシニ起ルカヲ明了ナラシメサルヘカラス現今ハ行政官吏ニ
對スル訴訟ハ上等裁判所ニ於テ之ヲ裁斷ス且又會テ中止ノ議案即
願訴規則ノ如ク人民戶長ニ不服ノコアレハ郡區長ニ願訴シ郡區長
ニ不服アレハ進ンテ縣令更ニ內務省ニ進ム等確然不拔ノ裁判所ヲ
設クルカ然ラサレハ遂ニ適從スル所ナキナリ且曩ニ願望書取扱規
則ヲ議スルニ方リ內閣委員云ク此事ヲ處理スルニハ內閣ニ於テ別
ニ規則ヲ制スルノ考案ナリト其或ハ然ラン然レモ本官等未タ其規
則ヲ見サルノ間ハ決シテ信ヲ置クヲ能ハスシテ此言益私益ノ請願
ハ權利ノ伸暢ヲ求ムルト云テ事足ラサルヲ証スルニ足ラン果シテ
其足ラサル者ハ行政裁判規則ニ據ルトセハ或ハ可ナルカ如シト雖

モ現今其規則ナキヲ奈何セン故ニ本官熱心スル所ハ全ク私益ニ關スル一項ヲ削ルニアリ蓋シ之ヲ存スルハ法ノ爲メニ葛藤ヲ生スルヲ慮ルヲ以テナリ建白ノ部類ハ之ニ反シ現ニ支障ヲ生シテ其處置ニ苦メリ以上ノ道理ニ由テ之ヲ推セハ本布告案ハ其字句僅々タルモ處置上ニ於テハ稍明備ナリト自信ス請フ之ヲ本院意見書トナシ上奏以テ前者ト進止ヲ採ルニ至ラシメンコトヲ

○三十一番柴原和 賛成ス本官ハ三十番ノ如キ私益ニ關スル請願ノ順序ヲ憂慮スルニアラスシテ別ニ公益ニ關スル所即チ數人連合ノ建白ヲ禁スル等ヲ憂慮スルニ在リ惟フニ夫ノ願望書取扱規則ハ急施ヲ要スルノ旨ヲ以テ速ニ決議上奏セシモ猶未タ公布ニ至ラサルハ蓋シ内閣ニ於テモ或ハ左右顧慮スル所アリテ然ランカ果シテ然リ

トセハ幸ニ本按ヲ奏上シテ其宜キニ誘致セハ可ナラン但本案モ亦字句ノ修正ヲ欲スルモノナキニ非スト雖モ大意ニ至テハ前案ニ比シテ勝ルコト遠シ請フ速ニ第二三讀會ヲ結了シテ上奏センコトヲ

○十六番玉乃世履 本意見書ヲ見ルニ願望書取扱規則ハ已ニ本院ノ議定ヲ經タリトアルカ如ク此事タルヤ衆官ノ反復討論シテ決定セシハ復々辯ヲ俟タスシテ知ル所ナリ然ルニ突然本案ノ出ルハ何ノ理由ニ由ルヤヲ考フルニ然レニ熟々該案ヲ考フルニ未タ完全ナラサル所多シト云ノ意ヨリ成ルモノナラン乎是レ本官ノ最モ解セサル所ナリ何トナレハ已ニ議定ヲ經ルモ未タ完全ナラストセハ宜ク其完全ノ法ヲ求ムヘキニ却テ本案ハ益不完全ニ誘フカ如クナレハナリ且意見書中該案ヲ實行スルノ不可ナル理由ヲ述ヘス惟フニ不完全

ヲ救フニハ之ヲ補充スルノ道ヲ舍テ他ニ法アリヤ彼ノ行政裁判ノ事ニ至テハ該案稍不完全ナルニ似タリト雖モ願望書取扱規則中ニ行政裁判ノ事アルノ理ナシ行政裁判ヲ起スニハ其名ハ異ナルモ其實ヲ取レハ訴訟法ヲ舍テ他ナキノミ今タトヒ行政裁判ノ訴訟法未ダ立タサルモ之ヲ以テ願望書取扱規則ノ不完全トハ云ヒ難キニアラスヤ蓋シ願望書ノ裁判ハ行政裁判ニ出シテ始メテ起ル者ナリ故ニ行政裁判ノ事ノ如キハ宜ク更ニ之ヲ詳カニスヘシトハ美ハ則チ美ナリト雖モ其之ヲ爲ス能ハサルヲ如何セン又而シテ第六條及第十七條ノ如キハ之ヲ今日ノ人情ニ參スルニ未タ妥ナラサルニ似タリト是亦不完全ノ點ニアラス之ヲ外國ニ考フルニ亦未タ多ク其例ヲ見スト云フモ畢竟外國ニ無キ法ヲ制定スルヲ須ヒストノ意ニテ

是亦不完全ヲ表スヘキ材料トハ爲スヘカラス之ヲ要スルニ不完全

目アリテ之ヲ補フモノトセハ本官モ亦之ヲ贊成スヘシト雖モ其實然ラサルニ由リ已ムヲ得ヌ否ノ一字ヲ呈スルコト爾リ

○三十番細川潤次郎文章解釋ノ異ナルハ人面ノ如クナルニヨリ強テ之ヲ歸一セシメントスルニアラスト雖モ本官起草ノ意ハ願望書取扱規則ノ行政裁判ニ論及セサルヲ不完全トスルニアルナリ十六番ノ

憂慮スル所ノ如キハ緒言既ニ之ヲ盡スヲ以テ敢テ駁論ヲ要セヌ只該案第六條ニ許多ノ修正アリシハ今日ノ人情ニ適セサルヲ致ス所

ナラン且該案ノ不完全ナルハ内閣委員モ既ニ明言セシ所ナリ其言ニ曰ク當初該案ヲ草スルヤ願望ト建白トヲ車ノ兩輪ノ如ク對稱セシモ遂ニ實際ニ苦ムノ論アルヨリシテ該案ノ如ク節畧セリト夫レ

行政裁判トハ何ソヤ願訴即裁判願訴トスルモ尙是行政裁判ト云フ
 ニ異ナラス既ニ云フ如ク曾テ願訴規則會議ノ際行政官ヲ被告トス
 ルハ郡區戸長ノ府知事縣令ニ於ケル府知事縣令ノ内務卿ニ於ケル
 カ如ク其關係ハ郡區長ト人民トノ如ク親密ナラサルニヨリ人民遂
 ニ其冤枉ヲ伸ル能ハサルト恰モ一家ノ裁判其所親ニ及フノ理ナル
 カ如キヲ論盛ニシテ該案終ニ中止スル所トナレリ加之此裁判ヲ別
 ニ設立セント欲スルモ今日財政困難ニシテ新治罪法ノ行フ能ハサ
 ルト一般ナリ苟モ行政裁判ト願訴トヲ別視スルモ其基ク所ハ裁判
 ナリ其源立タス安ソ其末アルヘケンヤ已ニ行政裁判ト願訴トヲ
 同一視セハ之ヲ不完全ト云フモ豈不可アラフヤ不完全トハ即不可
 ヲ謂テリ之ヲ要スルニ可成ノ事ヲナシテ不可成ノ事ヲ止メハ可ナ

ルノミ

○廿二番 其作 麟祥

起草者ニ問ハント欲ス第一ハ布告案ニ「國事ニ付上書
 スル者」トアル國事トハ國事ニ斃ル或ハ國事犯等ヲ語リ如キ重大ナ
 ル政体上ノ事ノ如シ内閣下付原案ニハ「公益ニ關スル云々私益ニ關
 スル云々」トアリ本案ハ「罰リチカル、アッフエト」区ノ事ノ意味ナル乎
 或ハ又公益外ニ於テ猶一身一個ノ事ヲ含ム乎第二問ハ「渾テ管轄廳
 ヘ差出該廳ヨリ云々」トアリ此事タル下付原案ニモ亦之アリ惟フニ
 緒言ニ「諸種ノ名目ニ托シテ云々此則舊法ニ害アリ防カサルヘカラ
 サルナリ」トアレハ縦管轄廳ヲ經由スルトモ此弊ヲ防クハ難カラシ
 敢テ辨解ヲ乞フ

○三十番 細川 潤 次郎

國事ハ讀テ字ノ如シ即チクニ「コトナリ」又渾テ管

○轉廳云々事ハ本意見書ニ附スル所以参照ヲ見ハ了然タルハキヲ
信シ別ニ辨明セサルナリ

○十一番^{神田}本^{孝平}案ハ廢棄スヘシ其理由ヲ畧陳セシニ願望書取扱規
則ノ議定上奏ハ經日未タ遠カラス然ルニ僅々數日間ニシテ已ニ該
案ノ不可ナル點ヲ發明シテ此說アルハ敢テ美ナラサルニハアラサ
レモ寧ロ早計ニ決シ變説ヲ速ナルナリ善シ善ニ從フコ流ルカ如
シ或ハ三日遇ハサレハ刮目シテ見ル等ノ古語ニヨレハ苟モ善アラ
ハ忽チ之ニ從フ以意ナルヘキモ素是一人一個ノ美德ニシテ立法官
ニハ敢テ取舍セサルヘカラス何トナレハ今彼ヲ舍テ此ヲ用フトセ
ハ又トヒ本案ヲ可トスルモ更ニ又兩三日ヲ經テ尙ニ層ノ善説ヲ得
ハ遂ニ又變更シ却テ從善如流ノ弊害ヲ生シテ決議必ス可決ナラス

遂ニ備ヲ作り毒ヲ流スニ至ラシ外國ニハ一年間ニ同事ヲ議ヌヘカ
ラカルノ條例アリ其意ヲ推スニ從善ヲ欲セサルニアラサルモ一旦
決定セハ良シヤ非ヲ悟ルトモ容易ニ動かサハルニ在ラシ本院條例
ニハ此事ナシ故ニ此ノ如キハ敢テ不可ナキモ一旦議決上奏セシモ
ノヲ再議ニ付スルコアルニ至ルハ又一方ニ於テ命ニ從フコ能ハス
トシテ奉還スルノ氣象ナキ能ハス况ヤ本案ハ下付案ニアラサルヲ
ヤ

○一番^{楠本}正^隆本官ハ本案ヲ贊成ス惟フニ例規ニ從ヒ決議上奏セシモ
ノヲ縱然變説シテ本案ヲ上奏スルハ太タ不体裁ニ似タルノ感觸ナ
キニアラスト雖モ大行ハ細瑾ヲ顧ミスト畢竟大事中ノ小事ナリ蓋
シ本官ハ先入爲主ノ意ニヨルモノカ將々自任ノ重キニヨル者ナレ

カ今ニ至ルマテ前案ニ遺憾多シ況ヤ本案ヲ如キ議事モ既ニ先例ノ
 アルヲヤ請フ速ニ議決上奏セシコラスイ畢貴大率申シ小事セシ蓋
 ○十六番^{玉乃}起草者云ク不完全ハ不可ヲ謂ナリト本官敢テ字句ニ
 拘ヤスルニアラサレモ到底不完全ト云ヲ以テ不可トハ解スル能ハ
 ス若シ其レ一步ヲ退キ不可ト解センカ尙前案ヲ補正スルノ道ヲ講
 セサルヘカラス起草者ハ願望書ト行政裁判トヲ同一視スルヲ主眼
 トシテ曾テ中止セシ願望規則ヲ引証シ又内閣委員ノ閑話ナル行政
 裁判ヲ置クノ意見ナリシトノ言ヲ擧クト雖モ是敢テ信ヲ措クニ足
 ラス素ヨリ願望書ハ行政裁判ノ事ヲ連續スヘキ者ニアラス何トナ
 レハ該官ニ願望シテ通達スルコ能ハサルニ至テ始テ行政裁判ニ移
 ス者ナレハ其順序ハ某ノ事ハ某規則ニヨリ改正或ハ消除セラレヨ

ト知事令ニ書ヲ出スヲ願望トシ知事令之ヲ聽カスシテ然ル後起ル
 者ヲ行政裁判トスルヤ明ニシテ即三十番ノ譯書ナル法律格言ニモ
 被告人ハ裁判ヲ爲スコナシトアリ故ニ外國ハ之ヲ内務省ニ訴ヘ本
 邦ハ之ヲ上等裁判所ニ訴フルナリ此理由ナルヲ以テ願望ト行政裁
 判トヲ同一ニ爲スハ被告人其自己ヲ裁判スルノ事トナルニヨリ相
 連續スヘキ者ニアラス故ニ下付案ヲ以テ不可トスレハ之ヲシテ不
 可ナラサラシムルノ道ヲ與フヘキナリ

○三番^{鶴田} 本案ハ可ナリ但稍解シ難キコナキニアラサレハ追テ質
 問セントス蓋シ本案モ完全ナルヤ否ヤヲ問フニ必ス完全ナルニア
 ラサレモ之ヲ前者ニ比スレハ其優ルコ遠シ夫ノ願望書ニハ建白ヲ
 詳ニシテ請願ヲ略セリ素ヨリ行政裁判ト私事ノ裁判トヲ一括スル

ハ能ハサル所ト雖モ私益ノ裁判ハ現ニ上等裁判所之ヲ擔任セリ佛
 國ノ如キハ内務省或ハ參議院ニテ行政上ノ裁判ヲ爲ス佛人ハ此事
 ニ對シ特立裁判ニ付セスシテ自家擔當ノ事ヲ自家裁判スルノ不可
 ヲ鳴ス者多シト聞ケリ外國ノ事ハ姑ク措キ惟フニ願望書取扱規則
 ノ起リシハ近來國會願望者四方ニ沸起セシニヨリ請願部ヲ畧シテ
 建白部ヲ切ニセシモノナラン且私益ノ事ハ現ニ其順序アリ建白ノ
 事モ亦先キニ元老院ノ達書アリ豈亦他ヲ要センヤ然レモ今ヤ種々
 ノ名目ニ托シテ指令ヲ請フノ時機ニ至レハ己ムヲ得ス其規則ヲ改
 正スト雖モ過タルハ猶及ハサルカ如キノ類ニシテ前案ノ密ニ過タ
 ルヨリハ寧ロ本按ノ簡ナルヲ勝レリトス且夫ノ願望書類ヲ元老院
 ニテ取捨シ主務廳ニ廻達スル等ノコトニ至テハ議官ハ宛モ諸廳ノ受

付者ノ如シ豈貴重ナル議官ノナスヘキ事ナランヤ本官ハ未ダ各國

ニ此例アルヲ見ス故ニ本案ヲ賛成スルナリ

○三十一番 和原 本官ハ本案ヲ賛成者ナリ十一番ハ正論ヲ唱ヘテ之

ヲ廢棄セシト欲スト雖モ本官ヲ耻ヲ忍ンテ之ヲ賛成セシハ已ニ前

案議定ノ時ニ述ヘシト一般ノ思想アルニヨレリ元來本院ニハ一種

ヲ檢視會ナル者アリテ敢テ急施ヲ要スルニアラサルモノモ急施ヲ

要ストシ先ツ布告シテ後ニ下付セリ此頃第四拾八號ノ如キ地方稅

或ハ定置委員等ノ事ハ實ニ國ノ重事ニ關シ議定ヲ要スル者ナルモ

猶且便宜布告ノ後檢視ニ付セラル、コアリ豈本院ヲ有無視セシ者

ニアラスヤ故ニ今ノ如キ時機ニ當リ本案ヲ上奏シ以テ内閣ヲ反省

セシメスハ尙後來如何ノ事ヲ爲スニ至ルモ測知スヘカラス惟フ

ニ前案ノ未タ公布セサルハ内閣反省スル所アルニヨラン請フ十一番モ一層其思想ヲ擴充シテ檢視會等ヲ廢シ内閣ヲ属スル如キ大論ニ及ハンコトヲ

○三十四番楠田英世 本官ハ元來願望書取扱規則ニハ不同意ナリシモ當時滿場同意ノ色ヲ見テ終ニ廢案論ヲ呈セサリシ意想已ニ然リ故ニ

本案モ不同意ナリ仍テ爰ニ例ヲ國會開設ノ請願者ニ假リ之ヲ述シニ彼レ元老院ニ請願書ヲ捧クルニ元老院ハ其建白ニ承テサルヲ以テ之ヲ却下ス由テ轉シテ太政官ニ奉上スレハ是亦其受付ト指令ニ

困メリ願望書取扱規則ノ成リシハ全ク茲ニ源スルナリ然レモ本官ハ以爲ク決シテ難事ニアラス一箋ヲ附シ聞届候事ト大書シテ之ヲ返ヘシテ足レリトス何トナレハ人民ハ何ニ由テ立法府ニ向テ請願

ヲ實行セサルヤヲ責ムヘキ權理ナケレハナリ且又タトヒ聞届置候事ト指令スルモ其實行セサルヲ責ムルハ誤レルノ甚シキモノトス今元老院ノ議決ハ必ス内閣ノ採用スル所トナルヤ否ヤモ亦之ニ同シ何ソ之ヲ責メテ其反省ニ乘スルヲ得ンヤ三十一番ハ其悔心ヲ誘致スヘシト云フト雖モ政府豈之ヲ採用セシヤ況ヤ本按ノ原則既ニ不完全ナルモノヲヤ故ニ本按ハ宜ク廢棄スヘシ

○二十四番安場保和 本官ハ本按ヲ賛成ス十一番ノ正論アリト雖モ三十一番ノ言ノ如ク寧ロ大小輕重ヲ較量シテ干格ナカラシムルノ善ナルニ如カス蓋シ前按ハ既ニ決定セシモ中夜以テ思ヘハ般憂措ク能ハサルモノアリ蓋シ該按ハ世人ヲ教唆スルノ法律ト云フモ不可ナ

キナリ今ヤ幸ニ本按ノ出ルニ遇フ本官ハ欣然ニ堪ヘス但文中修正

○議長ハ第一讀會ハ爰ニ了ル由人ニ送付スルハ其後第一讀會ニ付テモ
 ○三十番細川潤 本按ハ簡短ナルモソナルニヨリ直ニ第三讀會ヲ
 開カレシコトヲ建議ス且第一讀會ハ可否ノ決ヲ取ラサルノ成規ナル
 ○ヲ以テ本按ハ第二讀會ニ付スベキヤ否ノ方向ヲ定メシコトヲ望ム
 ○三十番柴原 賛成ス本按ハ簡短ナルモソナルニヨリ直ニ第三讀會ヲ
 ○議長ハ直ニ第二讀會ヲ開クヲ建議ニ同意者ハ起立セヨ
 ○同起立者十四人其數ハ議決スルニ付テハ三十番柴原 其數ハ其數ニ付テ
 ○議長ハ多數ナルヲ以テ直ニ第二讀會ヲ開クヘシヤ否ノ方向ヲ定メシコトヲ望ム
 ○書記官森山 其左ヲ按テ朗讀ス
 ○願望書取扱規則ヲ發セズ別ニ國事上言ノ取扱方ヲ布告スベキ

意見書

謹テ按スルニ願望書取扱規則已ニ本院ノ議定ヲ經タリ然レモ熟々
 該按ヲ考フルニ未タ完全ナラサル所口多シ行政裁判ノ事ノ如キハ
 宜ク更ニ之ヲ詳カニスヘシ而シテ第六條及第十二條ノ如キハ之ヲ
 今日ノ人情ニ參スルニ未タ妥ナラサルニ似タリ之ヲ外國ニ考フル
 ニ亦未タ多ク其例ヲ見ス縱ヒ修正ヲ加フルモ大意ハ則全原按ニ同
 シ本官ノ見ル所ニ據レハ目今未タ必スシモ此按ヲ設ケサルナリ但
 世ニ諸種ノ名目ニ托シテ建白ノ指令ヲ乞フ者アリ此則舊法ニ害ア
 リ防カサルヘカラサルナリ左按僅々タル數字庶幾クハ此弊ヲ防ク
 ニ足ラン謹テ進止ヲ取ル

明治十三年十一月十九日

即前十三卷十一月十日

起草者

細川潤次郎

賛成者

山口 尚芳

國事ヲ付上書スル者ハ種々ノ名目ヲ以テスルニ拘ハラズ建白書ト
看做シ元老院ニ於テ取扱候條渾テ管轄廳ヘ差出該廳ヨリ轉送可致
此旨布告候事

○三十一番柴原和 布告按ノ冒頭ニ國事ニ付上書スル者ハ種々ノ名目
云々トアルハ己ニ二十二番ノ疑問ノ如ク國事トハ或ハ國事ニ變
ル或ハ國事ヲ犯ス等ノ重大事件ニ關スルカ如ク且者ハ下云ハ上
書スル人ナルヤノ解ヲナスナキヲ保シ難シ故ニ政事ニ關スル上書

ハ何等ノ名目云々ト修正セント欲ス

○一番楠本正隆 賛成但本官ハ猶他ニ修正ノ點アリ三十一番ノ修正決定
ヲ俟テ提出セント欲ス

○議長 三十一番ノ修正ハ賛成者アルヲ以テ問題トナス
○三十四番安場保和 一番ハ他ニ亦修正アリト云フ然ラハ全ク三十二番

○楠本正隆 賛成ニワラサルカ如何
○一番楠本正隆 三十一番ノ修正ハ固ヨリ賛成スト雖モ猶結文ニ於テ別

ニ修正ノ説アルナリ
○三十四番安場保和 本官モ亦三十一番ヲ賛成スト雖モ亦他ニ修正ノ點

○伊丹重賢 本官ハ純然三十一番ヲ賛成ス
○伊丹重賢 本官ハ純然三十一番ヲ賛成ス

○議長 三十一番修正ノ決ヲ取ラン

○十六番 玉乃 世履 本官ハ前陳セシ如ク本按大體ニ不同意ナリ故ニ取決

ニ當リ三十一番ノ修正ニ起立セサレハ本按ニ同意ノ看ヲ爲ス乎要
スルニ本官ノ精神ハ共ニ不同意ナレハ頗ル迷フ所アリ敢テ議長ノ
處置ヲ乞フ

○三十番 細川 潤 次郎 特別ノ建議ヲ爲サン今ニシテハ稍取決ノ前後アル

ニ似タレハ本官既ニ前陳セシ如ク先ツ本按大體ノ可否ヲ決シ而シ
テ後三十一番修正ノ決ニ移ラハ夫ノ十六番ノ疑議モ亦自ラ釋然タ
ラントス仍テ此事ヲ建議ス

○議長 三十番ノ建議ヲ採用シ即本按大體ヲ可トシ第二讀會ニ付ス
ルニ同意者ハ起立セヨ

起立者十二人

○議長 多數ナルヲ以テ本按ヲ可トシ第二讀會ニ付スルニ決シ更ニ

○三十一番ノ修正ヲ可トスル者ハ起立セヨ

起立者九人

○議長 半數ナルヲ以テ職務條例ニ由リ議長之ヲ裁定シテ三十一番
ノ修正ニ決ス

○一番 楠本 正隆 布告按中渾テ管轄廳へ差出該廳ヨリ轉送可致ノ十六字

ヲ削ラント欲ス何トナレハ建白書ハ元地方官ニ關係ナケレハナリ
思フニ向ニ議定セシ下付ノ法按ハ戸長ノ奥印ヲ要スルモノナレハ
隨テ管轄廳ヲ經由スノ文字アリト雖モ是レ或ハ目下世上ノ風潮ニ
依リ建白人ハ東京ニ集マルヲ恐ル、ニヨルモノナラン然レハ其實

決シテ憂フルニ足ラサルモノナリ且ヤ政事者ハ建白ヲ爲サ、ルモ
 必ス東京ニ集マルノ勢アリ是等ニ反思シテ建白ヲ制セントズルハ
 抑々拙策ト云フヘシ到底地方官ヲ經由スルハ無用ノ事ナリ元老院
 ハ直ニ其衝ニ當ルヲ可トス故ニ之ヲ削除スヘシ

○三番 鶴田 賛成ス其理由ハ稍一番ニ異ナリ仍テ之ヲ略陳セシ夫レ
 渾テ管轄廳云々ノ文字タルヤ本案ノ参照ナル明治八年第百七十八
 號但書之東京府民云々トアルニ抵觸スルニアラスヤ故ニ此ヲ取リ
 彼ヲ捨テハ或ハ可ナルモ否ラスンハ之ヲ削除スルヲ可トスルナリ

○二十四番 安場 保和 賛成ス蓋シ緒言ニ種々ノ名目ニ托シ云々トアルハ
 是其最ナル主意ナラシ是ニ由テ之ヲ見ルモ其弊ヲ防クハ一番ヲ修
 正ノ如キニ如クモノナシ

○議長 一番ヲ修正ハ賛成者アルヲ以テ問題ト爲ス

○三十番 細川 潤 次郎 一番ノ修正ハ本官モ當初考究セシ所ナリ然レモ亦
 之ヲ除クヘカラサルノ理由アリ即参照ノ明治八年第百七十八號ニ
 ヨルナリ蓋シ立法ニ關スル者トセハ内政外政等其綱目ヲ舉示シテ
 之ヲ更メ下欲スルモ冒頭ニ國事ニ關スル云々トナスハ遂ニ第
 百七十八號ヲ動かカス能ハス何トナレハ長文ニ失スルヲ以テナリ然
 レハ則チ第百七十八號ハ之ヲ存スルヤ否ノ問題ヲ設ケサル可ラサ
 ルニ至ラン此ニ至レハ本官ハ之ヲ存スルナリ然ラハ試ニ之ヲ改正
 増補トセン乎是亦能ハサランサスレハ其本文ハ之ヲ存スルモ其但
 書ハ之ヲ如何セン云ク此但書ノ意味ハ頗ル不明ナリ即其意ヲ推ス
 ニ各地方ノ人民ハ主任廳ニ差出ストアリ本文ニハ元老院其他主任

フ廳へ差出ストアリ蓋主任廳中ニハ元老院ヲ含ムヤ否ヤ起草者ハ
 既ニ之ヲ含ムト解釋スヘシト雖モ其實元老院ハ三字ヲキテ以テ元
 老院ヘノミハ人民自己ニ攜帶スルヲ得ルモノナリト見解ヲ下サハ
 如何苟モ本文ニ從ヘハ此見解ヲ爲ス能ハス故ニ但書ヲ加ヘテ其意
 ヲ明ニセシモ遂ニ前後撞着ナキ能ハス之ヲ以テ渾テ管轄廳トナセ
 シナリ況ヤ前按ニモ管轄廳ヲ經由スルノ事アルヲヤキトナセシ
 ○議長 二十四番ニ問フ他ニ修正アリヤスルニテハ其ノ修正
 ○二十四番 安場保和 一番ノ修正ハ本官ノ意ト符合セリ故ニ他ニ修正ナ
 ○議長 一番ノ修正ヲ可トスル者ハ起立セヨ
 ○議長 起立者五人

○議長 少數ナルヲ以テ一番ノ修正ハ消滅シ即本按ニ決ス

○三十番 細川潤次郎 直ニ第三讀會ヲ開カンコトヲ乞フ

○議長 直ニ第三讀會ヲ開クヲ可トスル者ハ起立セヨ
 起立者十五人

○議長 多數ナルヲ以テ直ニ第三讀會ヲ開クニ決ス尤モ朗讀ハ之ヲ
 略シテ布告按ニ止ムヘシ

書記官 森山茂 左ノ按ヲ朗讀ス

布告按

○政事ニ關スル上書ハ何等ノ名目ヲ以テスルニ拘ハラズ建白書ト看
 做シ元老院ニ於テ取扱候條渾テ管轄廳へ差出該廳ヨリ轉送可致此
 ○官布告候事

○議長 本按ヲ可トスル者ハ起立セヨ

起立者十四人

○議長ニ多数ナルヲ以テ本按ニ決シ第三讀會ハ此ニ畢ル例ニ遵ヒ本

院意見書トナシテ上奏スヘシ散會セヨ

午後零時十二分開場

議事

號

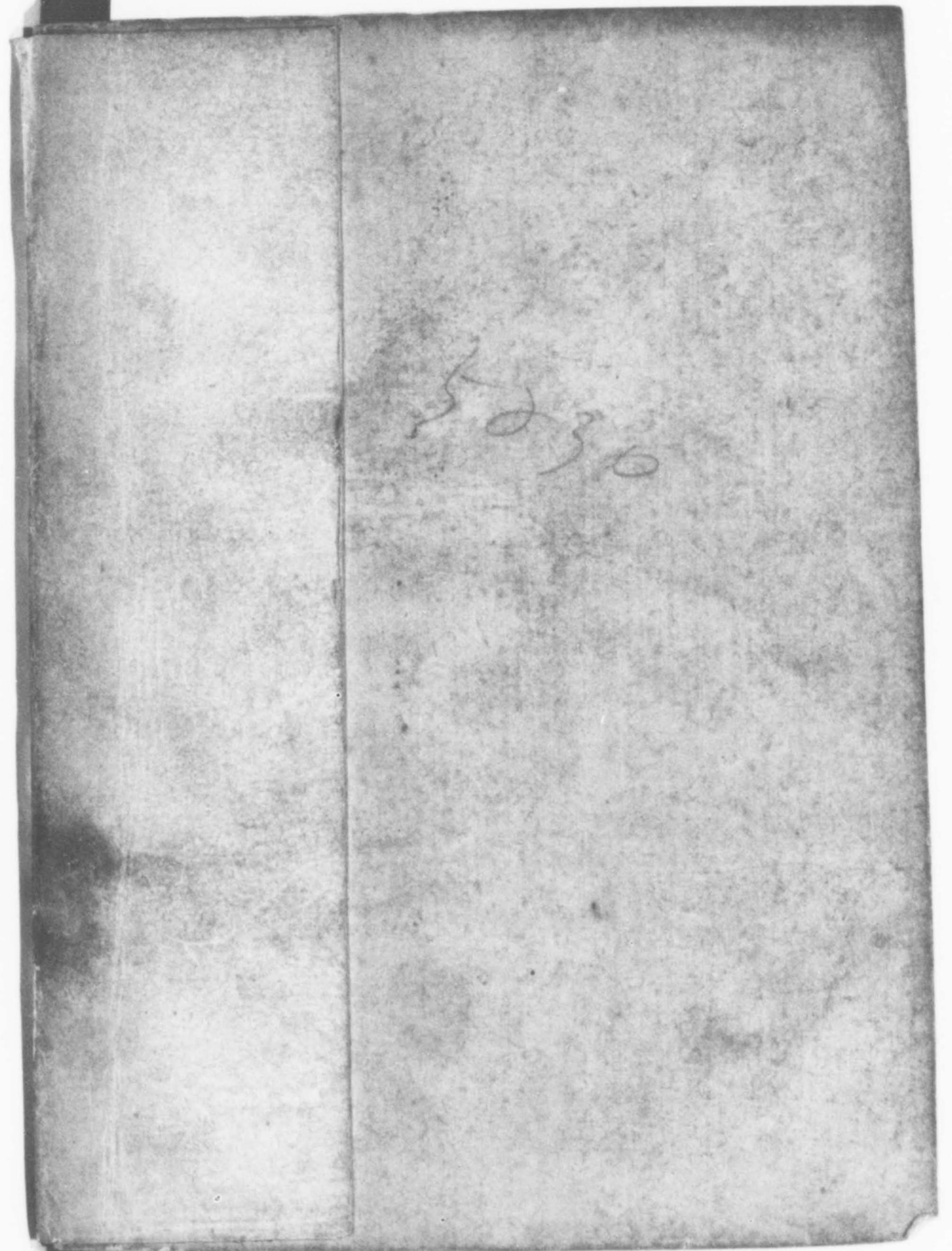
正人

司法省文庫

第 230 號

○議長 第三讀會ヲ開クヲ指シテ議事會ハ此ニ畢ル例ニ遵ヒ本

院意見書トナシテ上奏スヘシ散會セヨ



5030